

民主島根

2019年
3.17
第1332号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

市田副委員長を迎え、松江・出雲で演説会 統一地方選・参院選勝利を

中林参院選挙区予定候補、尾村・大国県議、山崎氏が訴え

出雲市と松江市で3日、日本共産党の市田忠義副委員長・参院議員を迎えた演説会が開かれた。両会場は知事選と県議選での現有2議席確保、参院比例での党の躍進、鳥取・島根選挙区の中林よし子氏を野党統一候補に押し上げて勝利し安倍政権を退陣に追い込む熱気にあふれた。

市田氏は比例での党の躍進を訴えた後、元衆院議員の中林氏を「食の安全と農業を守る第一人物」と紹介。1月の野党党首会談で合意された1人区の候補一本化に尽力し、「どんな困難があっても粘り強く本気の共闘を追求する」と改めて表明しました。また、全国で唯一、県庁所在地にある中国電力島根原発に関して「住民運動と結んで毎議会で追及し、再稼働を阻止してきたのが、住民のみならずと党県議団。

この宝の議席、今度も必ず送り出してください」と訴えました。尾村としなり県議は「ぶれずに筋を通す共産党の議席を守り抜いてください」、大国陽介県議は「原発ゼロの島根を一緒につくりましょう」と呼びかけました。中林氏は「野党統一を実現させ、国政にみなさんの思いを届ける」と述べました。知事選をたたく「みんなで作る島根の会」の山崎やすこ予定候補が訴えました。(写真)

声援に応える(左から)中林、市田、尾村、山崎の各氏(松江市)



参加者の声援に応える(左から)山崎、中林、市田、大国の各氏(出雲市)



日本共産党島根県委員会は2月24日、第84回県党会議を大田市で開催しました。統一地方選の勝利、参院鳥取・島根選挙区で中林よし子氏を野党統一候補に押し上げて勝ち抜き、比例は5万7千票以上、得票率15%以上で仁比そうへい参院議員

第84回県党会議ひらく 大志ある目標掛け値なしに

の再選をめざすなどの総合計画を決めました。後藤勝彦県委員長は安倍政権が狙う消費税10%への増税、憲法9条改憲などどの問題でも安倍政治は大破綻しており、対話をすればどこでも安倍政権への怒りの声が寄せられると紹介。「前回参院選時比3割増以上の党勢でたたかい、勝利するため大志ある目標を掛け値なしにやり抜こう」と呼びかけました。(写真)



「住民目線で政治を変えたい」と訴えました。大平氏は、沖繩の辺野古米軍基地建設の埋め立てに反対の審判が下った県民投票に背を向ける安倍政権を批判。安倍政権打倒に向け、「市民と野党の共闘で勝利し、党の躍進を」と呼びかけました。中林よし子参院予定候補は「野党が統一して必ず自民党候補を打ち破るべく力いっぱい頑張る」と訴えました。21日告示の知事選に挑む「みんなで作る島根の会」の山崎やすこ予定候補が「原発ゼロの島根を」と決意表明。安達美津子市議があいさつしました。

鼓動

「憲法はそこにあるだけじゃだめなんだ。守る努力をしなければ何の意味もないのだ」と赤川少年は思った。赤川少年とは「三毛猫ホームズ」シリーズなどの多くの著作を世に送り出してきた作家、赤川次郎さんだ。▼赤川さんの中学時代の1960年代初頭、天皇が地方巡行のために訪れた。学校帰りの赤川少年は交通規制が敷かれた道路脇に居た。すると、子ども連れの母親が「子どもが熱を出しすぐに医者にかかりたいので向うに渡りたい」と警備の警官に訴えたが拒否された。▼天皇らしき車列が通り過ぎたのは、それから30分以上もしてからで、その母は周りの「天皇陛下万歳」の喧騒の後でうずくまっていた。「憲法で、天皇も普通の人間」というのなら、信号を守るべきでは」と、素朴な怒りがわいた。▼赤川さんは「僕は左翼の人間ではなかった。ところがいつの間にか、社会全体が右傾化して、本人は動いてないのに軸の方が動いちゃった」と言う。戦後74年、戦争を体験した世代がほとんどいなくなり世の中も大きく変わった。安倍内閣の改憲大合唱の中で「憲法改正容認」との声も大きくなった。▼そして「ウソをついても言い通せば済んじゃう」という変な世の中になった。と、安倍政権を嘆く。赤川さんはこんな時だからこそ、憲法を持つ平和・自由・真実の精神を自らの作品で訴えたいと強く思う。「人を愛する素晴らしさとか、そのためには精神が自由であることが大切だ」と訴える。(吉)